

関連科目、教科書および補助教材	
関連科目	経済学Ⅰ・Ⅱ、財務会計論Ⅰ・Ⅱ
教科書	「ビジネスマンのためのファイナンス入門」山沢光太郎(東洋経済新報社)
補助教材等	プリント
学習上の留意点	
<p>経営財務論は、数式を用いることが多いので、数列、微分積分などの必要な数学の知識は確認しておくこと。授業の時は、必ず電卓を持参すること。関数電卓ではなく、簿記用の電卓を準備すること。授業中は、寝ない。しゃべらない。メリハリが必要です。</p>	
担当教員からのメッセージ	
<p>専門科目に入ると、初めて聞く内容が増えてきて理解するのも大変になります。この講座では、教科書に出てくる難解な内容をできるだけかみくだいて説明したり、身の回りの具体的なものに例えて説明することを心がけて授業を行う予定です。進む進度もすこしゆっくりめに設定しています。</p>	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	0 ガイダンス 1 ペイアウト政策	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスから学習の意義、授業の進め方、評価方法を理解できる。 ・MMの配当無関連性命題を理解できる。 ・自社株買いの無関連性命題を理解できる。 ・配当と自社 	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
2			
3			
4	2 ポートフォリオ理論とCAPM	<ul style="list-style-type: none"> ・分散投資のリターンとリスクを理解できる。 ・ポートフォリオ効果について理解できる。 ・効率的ポートフォリオについて理解できる。 ・資本市場線について理解できる。 ・β 値について理解できる。 ・証券市場線について理解できる。 	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
5			
6			
7			
8	中 間 試 験		
9	答案返却・解答解説 3 企業価値と株式価値の評価 4 合併・買収	<ul style="list-style-type: none"> ・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。 ・企業価値の算定モデルについて説明できる。 ・将来キャッシュフローの価値について理解できる。 ・配当割引モデルについて理解できる。 ・M&Aの事例、動機について説明 	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
10			
11			
12	5 債券価値の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・債券価格の決め方について理解できる。 ・債券の信用リスクについて理解できる。 ・債券の利回り計算ができる。 	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
13			
14			
	期 末 試 験		
15	答案返却・解答解説 全体の学習事項のまとめ 授業改善アンケートの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・試験問題の解説を通じて、間違った箇所を説明できる。 ・全体の学習事項のまとめを説明できる。 	
総 学 習 時 間 数			45 時間
講 義			30 時間
自学自習			15 時間